HOT NEWS

ＪＨ日本道路公団が建設を進めていた道央自動車道の旭川鷹栖IC～和寒IC間(29.3km)が平成12年10月4日に供用開始となった。これにより道北方面の高速交通ネットワークの形成が一段と進み、道北圏の社会経済活動がさらに発展するものと期待されている。

道央自動車道「旭川鷹栖ＩＣ～和寒ＩＣ」が供用開始

日本道路公団

祝 道央自動車道

【事業の概要】

道央自動車道は、北海道を南北に縦断する北海道縦貫自動車道の一部であり、函館市を起点として室蘭、札幌、旭川を経由し、名寄市に至る延長約497kmの高速自動車国道である。これまでに長万部ＩＣから旭川鷹栖ＩＣ間の延長319.5kmが開通している。

今回供用が開始された区間は、旭川鷹栖ＩＣから和寒ＩＣまでの延長29.3kmである。路線は旭川鷹栖ＩＣから鷹栖町と旭川市の境界に沿うように台地部を北に進み、道道鷹栖東神楽線に連結する旭川北ＩＣへと至る。そこからは水田地帯を北東に直進し、比布町の丘陵部の山裾を北に進み、国道40号とＪＲ宗谷本線を跨ぎ、塩狩峠の西側を通過し、和寒町の市街地手前で国道40号と接続する和寒ＩＣへと至る。旭川北ＩＣと和寒ＩＣの間に比布大雪パーキングエリアが設置されている。

同区間は、全線暫定二車線となっているが、途中の4箇所約5.5kmは追い越し可能な付加車線を設けた四車線区間が設けられている。また、延長約9kmは将来車線を中央に予定した外側二車線での供用であり、走行の安定性、快適性を向上させている。

構造別延長は、土工区間が約28.6km、橋梁区間が約0.7kmである。設計速度は全線が100km/hである。

【事業の歩み】

当区間は、平成元年3月に整備計画が決定され、平成2年12月に施行命令が出された。平成5年2月に事業概要説明を行った後、同年4月に中心杭打設を開始し、その後設計協議を重ね、平成7年に用地の団体調印にこぎ着け、同年8月に最初の本線工事に着手した。その後、順次工事を発注し、事業概要説明から8年の歳月と総事業費約520億円を費やして、今回平成12年10月4日に待望の供用開始となった。

STA.5付近より旭川鷹栖IC

STA.243付近より和寒方面

【技術的特徴】

当区間は、走行の安全性や快適性を向上させるための各種の取り組みを行っている。

主なものでは、大きな河川の横断がないため橋梁の規模が小さく、橋桁の伸縮量は少ないことから、全区間でノージョイント化を図ったことである。これにより橋梁部での走行の快適性が向上するとともに、維持管理作業も容易となって交通規制が減少し、渋滞緩和が図られる。

また、標識等の交通安全施設の支柱などに塗装を施すとともに、デザインの単純化や支柱防護柵の省略を行って、走行景観の向上を図っている。

【整備効果】

今回の供用開始により、道北方面への高速交通ネットワークの形成が一段と進み、道北圏の産業、経済、文化の交流促進、観光産業の活性化など、社会経済活動が大きく発展するものと期待されている。特に、農水産業では、貨物自動車による本州向け出荷の利用圏域が拡大し、高付加価値商品化、市場拡大、価格・供給安定化など産業基盤の確立と競争力の強化が期待されている。

（資料提供：日本道路公団北海道支社建設部）

旭川鷹栖インターチェンジ

旭川北インターチェンジ

旭川鷹栖～和寒 開通

道路公団